



つながり

大上好久

令和7年7月1日発行 Tel:29-5210 Fax:21-3456



通津小学校



二次元コードから
閲覧可能です。

もち米が 子供と地域住民の 心をつなぐ !!

文部科学省は、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編<第4章第2節の(6)>の中で、次のように述べています。「総合的な学習の時間は、保護者をはじめ地域の専門家など外部の人々の協力が欠かせない。この時間を豊かな学習活動として展開していくためには、地域の人々を積極的に活用することが必要である。教員だけでは展開できない多様な学習を行うことができたり、多様な大人との『対話的な学び』から児童が成長できたりするという大きな意義を持つ。」

本号では、地区社会福祉協議会と連携し、学校の授業と地域の活動を連動させ、地域に開かれた実践計画<学校・地域連携カリキュラム>を作成・実践している通津小学校を紹介します。

学校と地域の協働活動 田植え・稲刈り(学校) → 餅つき・とんど焼き(公民館・地区社協)

【令和7年6月】田植え

昨年までの水田が使えず、米作りが中止の危機でした。子供たちの「田植えがしたい」、教職員の「無くなるのは辛い」という願いを受け、自治会連合会会長や学運協のメンバーが立ち上がり実施できました。ありがたい限りです。子供達には感謝の気持ちを持って、最後まで頑張って楽しんでほしいです。<武政校長>

2~3本ずつ植えるのが、上手になったね。
<地域住民>



土を平らにして、印のところにしっかり植えてね。<地域住民>

【令和6年10月】稲刈り

大きくなったな。これが餅になるのだな。<子供>

土がねばねばです。ちよっと気持ち悪いけど、楽しいです。<子供>

結ぶのはとても難しいです。<子供>

【令和6年12月】餅つき

皆さんと、ぜんざいやきな粉餅にして食べるのが楽しみです。<子供>



手を怪我しないように、できるだけ下を刈ってね。<地域住民>

結び目を押さえるようにするといいよ。<地域住民>

5年生が植えて、刈り取ったもち米が餅になりました。<地域住民>



校長先生の最初の言葉が、「毎週月曜日「スイートピーの会」の皆さんが各教室に花を飾ってくださる等、学校は地域に常に支えられています。」という感謝の言葉でした。もち米作りも、生育の様子が観察できるように学校から歩いて5分の水田が用意され、子供が稲刈りして収穫したもち米は、公民館を会場とした地区社会福祉協議会共催の「餅つき」、学校を会場とした「とんど焼き」とつながっています。米作りは、子供の体験や学びの深まり、地域住民の生活の潤いなど、通津地域に住む人々のウェルビーイングの高まりを演出しています。

